

【VI】食べものへのこだわり

24 カジュアル化を狙うレストラン

ディナーおよび朝食ともに主力はバイキングであるが、価格から見ても内容は豊富で、かなり原価率が高いことを物語る。朝食の原価率は60%をかけるという。お食事の付いていないプランでご予約がある場合、夕食大人2,800円(小学生1,960円)幼児(3歳～未就学児)1,400円、朝食大人1,000円(小学生700円)幼児(3歳～未就学児)500円である。

このバイキング料理を担当する料理長はまだ39歳の中国料理の出身。これは新保会長のアイデアである。全体にカジュアルを狙っている。

一方、「お食事処なかさと」は、カジュアルな和食メニューもあるが、割烹を訴求する和食堂でもある。この食堂の空間は、分譲部分(リゾートマンション)のパブリックスペースになっており、ホテル側が無償で借用している。

原価率(上代に占める材料費の比率)を50%ほどかけて(割烹の原価率は通常30%から33%程度)、分譲オーナー向けに落ち着いた雰囲気の中で美味しい食事が出るような献立を提供している。

エンゼル越後中里は、全館あげて子育て応援対応であるが、「お食事処なかさと」はそういう意味では、子育て応援の治外法権、つまりは大人の空間である。700以上のユニットを抱える宿泊・滞在施設であるから、そのゲストのすべてが子育て応援に関心があるわけではない。当然のことながら、静かにゆっくり過ごすということを目的とする「おとなの客」もいる。いかに「子育て応援」とは言え、この種の客から見れば、子供は騒々しい。

このようなおとなの空間を作って、原価率の高い食事を提供するの、エンゼル越後中里流の、こうした宿泊者滞在者への配慮である。

25 今井肇の献立と「おとな優先」ゾーン＝子育て応援の「治外法権」

館内にある「お食事処なかさと」の料理長は今井肇という。品川・高輪・東京(芝)・箱根の各プリンスホテルを経由して苗場プリンスに勤務を経て、エンゼル越後中里に移籍し、6年を経過した。計20年の経験という。方針は幅広い料理を見て刺激を受け、カジュアルに変えて顧客に伝えていくこと。二か月に一度、献立を変える。当日の献立と内容はつぎのとおりである。

水菓子	食事	揚げ物	温物	強肴	酢の物	焼物	御造り	前菜盛り合わせ	食前酒	雪譜膳
エンゼルブランド越後中里 食事処なかさと料理長 今井肇	魚沼産こしひかり お新香三品盛 けんちん茸汁	唐揚げ 野菜三品	越後のつば煮 いくら三つ葉	新潟和牛ステーキ あぶり大根一貫船	八海山サーモン 赤かぶ 柿のもと 胡瓜 ところろ	太刀魚柚庵焼き 松茸 谷中生姜 焼前	本日のお刺身盛り合わせ あしらい一式	地場産きのこ白和え 芋茎甘酢漬 舞の南蛮漬 秋刀魚の柚庵焼き 丸十重煮 はじかみ	苗場山 純米吟醸	

35:「食事処なかさと」献立例・雪譜膳

なるほどと思った料理は、「丸十みつ煮」「太刀魚柚あん」「和牛ステーキ」。

「丸十みつ煮」は、丸十(さつまいも)をくちなして色づけ、湯引いてから、上白糖を水に溶いて炊く。若干のレモンを入れてさっぱり感を出す。

「太刀魚柚あん」は、骨きりした太刀魚の一夜干しをみりん醤油で味付け、柚子をかける。



36:「なかさと」店頭での今井肇料理長

「和牛ステーキ」は、塩コショウはおなじだが、味に丸み深みをつけるため、醤油に牡蠣油（オイスターソース）を使う。脇役のあぶり大根は下味をつけたものをフライパンで焼く。

控えめな献立なので、コンテストで優勝するような内容では無いけれども、平凡に見えて気を使った料理である。なんとなく微笑ましさを感じさせる。

少々興味深いのは、バイキングも和食も料理長は苗場プリンスホテルから移籍したことである。おそらく苗場プリンスならば、こういう配慮は必要なかったであろう。公式どおりの定型的な会席を作っていたのではなかろうか。いささか誇張して言えば、「お食事処なかさと」のこの料理長の出す料理は、あたかもカウンター割烹のような印象を与えるのである。

カジュアルに加え、山のなかの料理ということもあろう。むしろお造り以外の料理に神経を使っているように見えた。魚から肉という時代の流れでもあろうし、オイスターソースを使うあたりは、異なるタイプの料理の混合、いわば fusion の効果である。価格からみてお値打ちの料理である。



37: 左・「なかさと」のホール内部、右・前掲とは別の献立例

26 会長は味のプロデューサー？

ターゲットが「子育て応援」ということだったので、正直言って、料理にあまり期待はしていなかったのだが、しかし、振り返ってみると、結構イケるのである。そもそも、会長の新保は、エンゼル越後中里周辺にリゾートレストランを新設し、日本酒の醸造にも進出している。

越後湯沢は、志賀や白馬・蔵王に並び、日本を代表するスキー場集積地とはいっても、その人口から言って、本格的なリゾートレストランが成り立つような街ではない。こう言うのは失礼だが、なぜそんなことをするのだろうかという疑問を持ったくらいだ。しかし、よくよく考えてみると、ひょっとするとこの経営者は、「おいしいもの」の追求に相当な関心を持っていると推測した。

証券会社を経由して、家業の不動産業を継承して、リゾートマンションに注目、さらにホテル事業に進出するという展開は、よく理解できるところであるが、この味の演出ないしマネジメントは、証券業や不動産業の延長で実現できるようなものではない。何か秘められた才覚があるのだと…。「味のプロデューサー」としての今後の展開に、さらなる期待をいしたい。

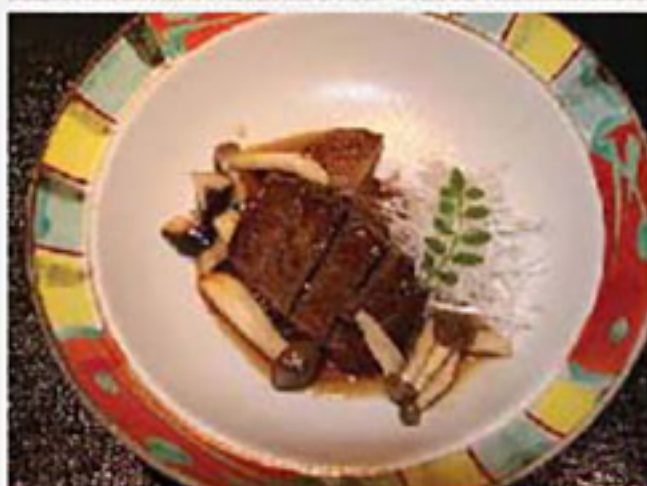
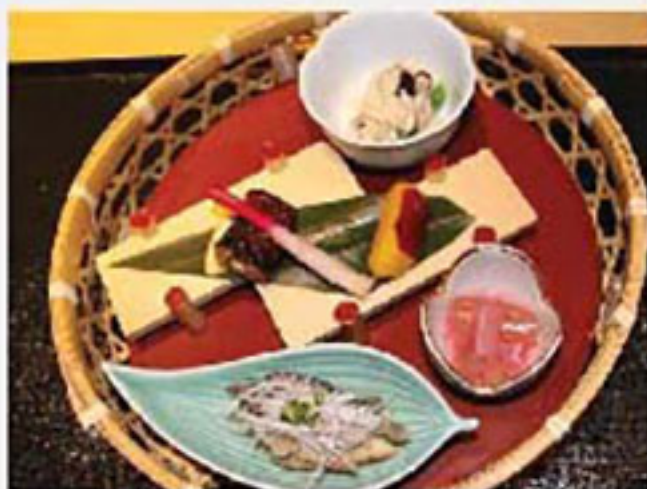
27 旅館料理あれこれ

バイキング形式であれ、フルサービスであれ、ホテル・旅館で出されるお仕着せの料理で、なるほどと思うものに出会うことが少ない。ときどきその理由を考えたりする。

1泊2食付で2万払ったとしよう。消費税8%をカットすると18,500円になる。ルームチャージと食事代を半々と考えると、料理は9,200円程度になる。そのうち2,200円を朝食に回せば、夕食は7,000円の料理になるはずである。材料率を30%とすれば2,100円。食事も1含めて10品出せば、1品あたりの材料費は210円ということになる。むろん強弱をつけるなら、あるものは出来合い(既製食材・料理品)で処理し、あるものは重点的に加工するなど、自在に献立を考えることができる。また、予約がはっきりしているので、あらかじめ出数が明示される。つまりフロントローディング、作業の前倒しが可能になる。

このように恵まれた条件なのだけれども、しかし、調理場から客の顔は見えないし、調理場と客室は離れている、ある程度品数を出さないと説得力がない……ということにある。逆に、大団体の宴会となれば、何を出しても結局は反応が同じ、そして、がんじがらめになっていて食材を合理的に仕入れることができない……、なかにはこういう事情もある。頑張っても仕方がない。

そこで、経営者は、料理の中身よりも、食事をする空間や、食事のための什器備品、あるいは話題をパブリシティに乗せることにカネをかけ、それで説明しようとする。全体に安易になるので美味しいものから遠ざかる。かくなる悪循環も働く。美味しいものを食べようという要求は、旅館という業態から見ると、相性が悪いのかもしれない。そう思うと、食べる物には、あまり期待しないでおこうということになる。学習効果に他ならないが、しかしながら、越後湯沢という街は、結構おいしいものも多いのかもしれない、おいしいものを追求する風土があるのかもしれないともいう仮説を持ったのである。



38:当日の「お食事処なかさと」の会席料理。

28 おいしいものが多い(かもしれない)越後湯沢

一説によれば、東北地方で地方の名前に料理をつけて、なるほどと思うのは、秋田料理ぐらいのものである。なんといっても「シヨツツル」という魚醤のソースが絶妙の味を引き出すからだ。仙台は、柑橘だったら何でもそう、豊富な食材に恵まれているのに、料理と呼べるものはなかなか見だしにくい。

牛タンと冷やし中華がウリ。伊達の殿様で頑張ったのは政宗だけで、2代目以降は意外に地味なのだという。

越後は東北地方ではないけれども、まあ東北電力の管内でもあるので、ここでは東北地方に入れて考えると、意外に「越後料理」というものもあり得るのかもしれない。考えようによっては、おいしい米が取れるし、魚もとれる、塩にも不自由しない。賛否はあろうが、米と茄子の料理を売り物に1泊2食で4-5万円の割烹旅館を営むケースもある。

越後湯沢の駅ナカに鄙にも稀な商店街がある。それまでは大赤字であったようだが、2009年ごろから新装開店し、地元の商店も出店している。そのなかのあるイタリアンレストランなどは、なかなか人気があって、意外に素晴らしい味を提供する。これといって代わり映えのしないお菓子なども、なかなかいい味をしている。

また、この商店街には、一部によく知られた「公衆浴場」の温泉がある。



39: 上越新幹線越後湯沢駅なかの“かなりの規模の”商店街。がんぎ通り他。

そういえばエンゼルの新保会長も美味しいものを追求して「たきびの村・だんろの家」を出店し、酒造をグループ化して「銘柄: 苗場山大吟醸鑑評会出品仕込」を出している。

カジュアル化を追求しながら、伝統を超える味を追求しているのかもしれない。とすれば大変結構なことである。

29 閉鎖的に見えるが意外にフランク

地元以外の事業者による越後湯沢へのホテル事業進出は、客を奪われるとして、しばし反対される。湯沢に限らず、観光地、とくに温泉を持つ観光地ではよそ者に対して閉鎖的なスタンスをとる。むやみに競争が増えると、温泉が足りなくなるという事情もある。エンゼル越後中里も地元縁のない東京資本の不動産屋が開発したものだ。しかし、ひまわりの時代になってからは、食事会などで地元客にもよく利用していただき、良好な関係を維持している。

ある従業員は「湯沢は閉鎖的だが、付き合いばいい人が多い」という。もともと宿場町であるから、客の応対は抜け目がないのかもしれない。4年前に変わった現町長は「観光をメインに」行政を考えているともいう。16年2月に、アルペンスキーのワールドカップを苗場に誘致した。近隣では「塩沢町がいいところだ」「雲洞庵はお奨め」という。雲洞庵は上杉謙信とその養子上杉景勝を扱ったドラマ「天地人」のロケ地である。...

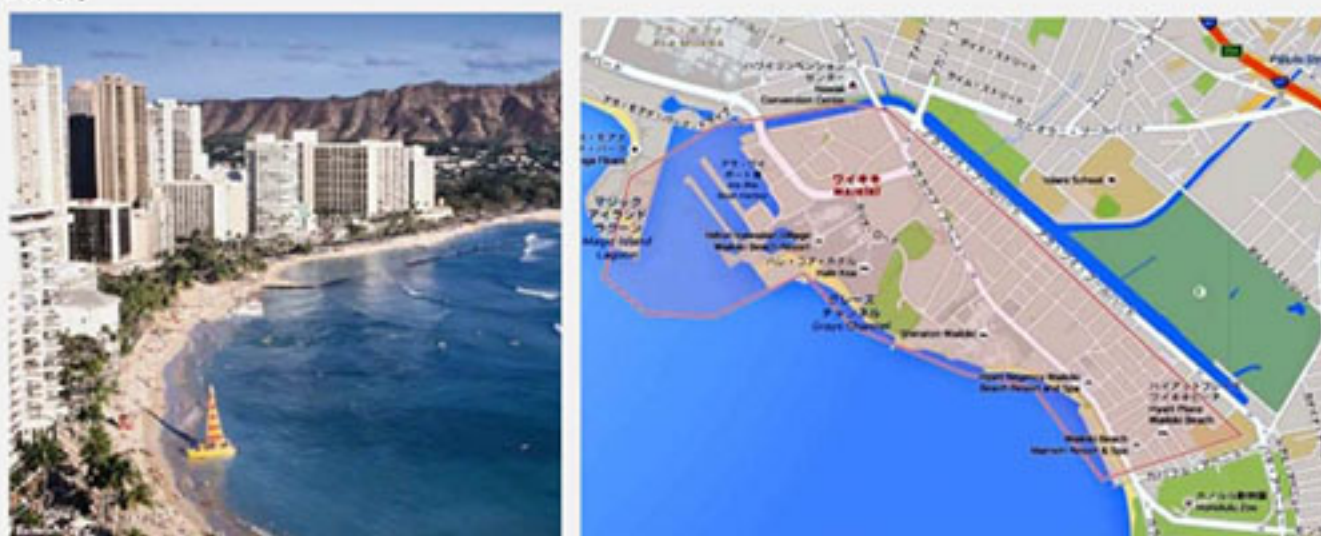
【Ⅶ】リゾートマンションと複合定住(マルチハビテーション)

30 「エンゼルメンバーズクラブ」とタイムシェア事業

ひとつのユニットに複数の所有者を認め、それぞれカレンダーを調整して利用する。アゼルの時代に、このようにいわゆるタイムシェアの原初的な商品となる「エンゼルメンバーズクラブ」を設定し、熱海・稲取・中里のそれぞれのリゾートマンションで840口募集した。それぞれひとつのユニットの所有権を15分の1に分割して共有する。中里の場合は、その後30分の1に分割し価格を抑えた商品も販売していた。「エンゼルメンバーズクラブ」はひまわりが継承した後も引き続き運営されている。

Hilton や Disney のような大手のタイムシェア事業者は、タイムシェア専用のビルを1棟(property)建設して、そのすべての部屋(Unit)をタイムシェアとして販売する。こうしたやり方以外に、ひとつの property のなかに、1人の人間が所有するユニット、タイムシェアとして運用するユニットが混在するケースもある。アゼルのエンゼル越後中里における運用もこの方式であった。

また、中小のタイムシェア事業者では、既にあるユニットを買収して、そのユニットに複数の所有者を認めて、カレンダーを調整して利用するケースもある。筆者の記憶によれば、ハワイ・オアフ島のワイキキビーチとアラワイ大通りの間にある、様々な建物(property)には、いろいろな仕組みを観察できる。常設の見本市のごときものである。



34: 左・はワイキキビーチのプロパティ群。出典・不詳。右・はハワイ州ホノルル市ワイキキ地区

コンドミニアム(集合住宅)の常態は、所有者＝定住者ではあるが、個人が投資目的で Unit を持つ場合は、所有者が賃貸に出す。自らは使わないときはホテル運用(≒短期賃貸)してもらう契約(≒ホテルプールに加盟)するケースがある。

既に触れたが、アゼルのエンゼル越後中里をひまわりが引き継いだ時点では、1棟(プロパティ)全 722 ユニット(室)は1室分譲のユニット、ホテル運営で使用するユニット、エンゼルメンバーズクラブのユニット、それ以外に1室を52週に分割して共有する「タイムシェア」運営のユニット(37室)に分かれていた。

「タイムシェア」は、アゼル時代にハワイ島で分譲したタイムシェアのシステムを国内用に改良して導入したもので、利用できるウィークに応じて、1口40万円代から400万円程度で販売されていた。この商品は、①類似商品に比べて比較的安価なこと、②RCI-Japan に手数料を払い海外のタイムシェアとの交換が可能なこと、エンゼル越後中里のアクティブな利用者の場合、その満足度は高かったという。

残念ながら、タイムシェアはアゼルが販売・運営していた商品であったため倒産により運営を停止した。未販売部分を引き継いだひまわりが販売済みの部分もオーナーから買い取り、現在はホテルとして運用している。

31 アメリカのパケーションオーナーシップの場合

こうした需要は諸外国にもある。こうしたニーズは国民の生活が成熟するほど明確になってくる。典型的にはアメリカのパケーションオーナーシップである。かつて強引なセールスで批判を浴びたアメリカのタイムシェア業界が自助努力を重ねて、いまなお生き残り繁栄している。それは、子どもが親離れをするまでのプロセスを考えながら、タイムシェアを買うミドルクラス人たちが少なくないという背景もある

アメリカのパケーションオーナーシップの購入者は、4人家族が年1回1週間程度宿泊することが可能な、まさに中間層である。滞在中の家族が、ふだんの延長で、好みに応じて食事を取り囲らんする。

そのスペースを、普通のホテルに求めても、空間的に無理がある。ツインルームを2つ使っても、また、スイートルームを使っても、小さな子どもがのびのびあそぶ空間にはなじまない。むしろ、コストパフォーマンスが悪い。ホテルそのものが良いとか悪いとか言う以前に、施設それ自体が、家族の滞在という目的にふさわしくない。

こうしたニーズに対し、レギュラーホテル(≒通常のホテル)に代わって、タイムシェアの施設(≒つまりアメリカ風のリゾートクラブ)が対応できる。リゾート施設の企画ないしは設計の段階から、4人家族は1週間無理なく滞在できるように配慮を加えていく。日常の生活空間とは異なったリゾートではあるが、普段の生活の延長という意味合いも持たせることになる。

滞在期間が1週間ともなれば、ユニット(客室)に、ある程度の厨房設備(キッチン)があるかどうかは、結構重要な問題になる。



23:コロラドの典型的なタイムシェアの外観

出典・<https://vacatia.com/top-timeshare-destinations/colorado-rockies-timeshares>

こうしてアメリカの事情に比べると、日本の場合の4人家族の滞在は、明らかに短期滞在の傾向が強い。リゾートに滞在すると言うよりは、観光地を訪れ旅館に泊まるイメージが強く、観光地に出かけて、わざわざ自ら料理をするというようなことは、間尺に合わないと考えがちである。

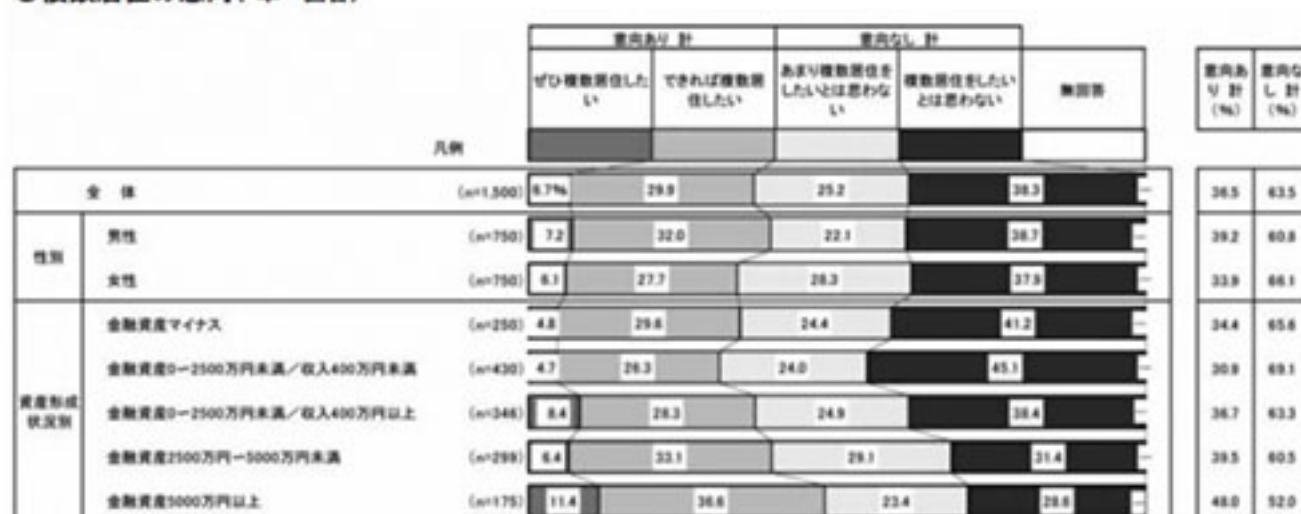
32 マルチハビテーション

マルチハビテーションとは、「1 世帯が複数の住居を持ち、必要に応じて住み分けること」と、ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典 には載っているけれど、multi-habitation で検索しても、適当な記事にヒットしない。和製英語のような気もするのだが、まあその辺はおくとして。

こういうことは、ひとそれぞれではあるけれども、例えばニューヨークやパリに 1 週間滞在して、なにがしか用事を片付けようとする。ネットでホテルを探して、ということになるが、毎晩ミーティングが続くならばともかく、レストランで 1 人で夕食をとるのは実にわびしい。

週間の滞在ならば、近くのスーパーストアに行って適当に食材を買い込んで、自分で調理して食事をした方が、時間の節約にもなるし、書類でも見ながら食事もできるので、体調もよろしい。となれば、たとえ簡単なものでも、客室に調理設備あって、気の利いた調理器具や平凡な食器が出ているということが重要になる。

●複数居住の意向（単一回答）



40: 複数居住

出典…島原万文、「団塊世代の今後のライフスタイルと住まいに関する調査…ニューファミリーと呼ばれた夫婦のセカンドライフ」、リクルート住宅総合研究所、2007 年。

<http://www.jresearch.net/house/jresearch/dankai/pdf/p132.pdf>

コンドミニアムのユニットは、コンドミニアムホテルになる可能性は十分にあるし、ネットで丹念にさがしたら、これに該当する「物件」に出会うことができる。1 つのユニットに、two bedroom あれば、プライバシーを確立しながら、仕事仲間と宿泊することもできるので、打ち合わせが効率的に進む。

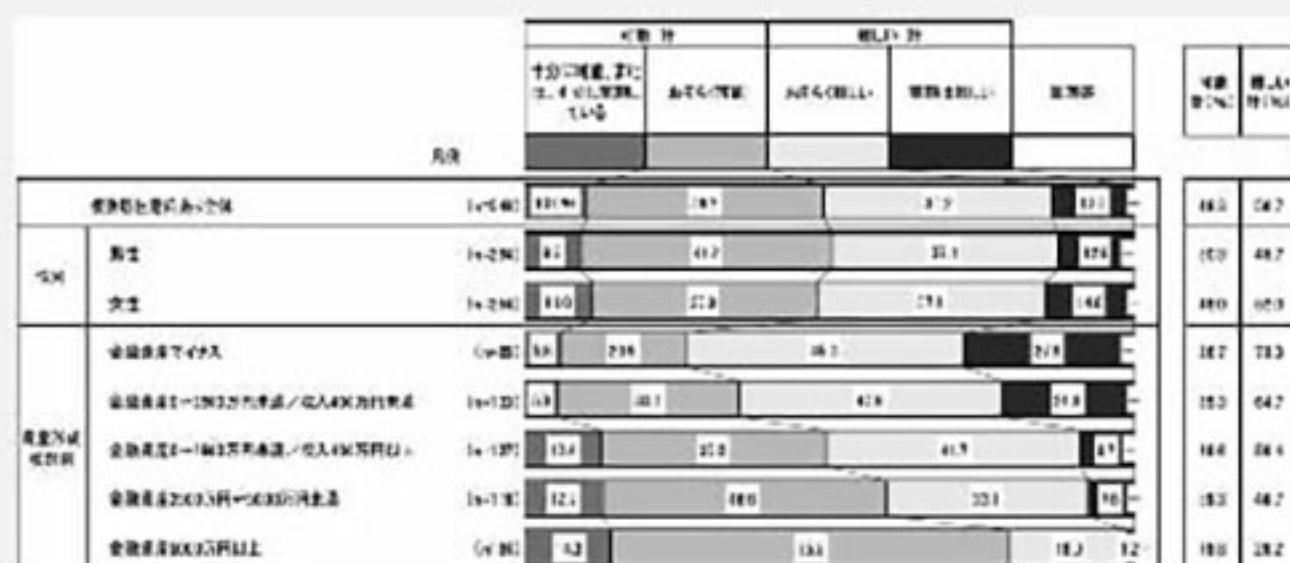
リゾートマンションというのは、完全な日本語であるが、本当は色々な可能性を秘めたユニットであるはずなのである。しかし日本の場合、居住するためのユニットと、宿泊するためのユニットとは、別物であるということになっているので（少なくとも旅館業法にはそう定めてある）、リゾートマンションは空き部屋になってしまい、残念ながら、社会資源として有効に活用されない現実がある。

伊豆高原とか軽井沢に別荘を持ったとしよう。これも人それぞれではあるが、小説家のように原稿書とか、かつての都知事のように土日にも別荘で仕事をするとか、よほどしっかりした目的がないと、間違いなくすぐ飽きてしまう。毎週行くというのが相当厳しいスケジュールになる。仮に毎週行ったとしても、年間 100 泊しかない。外国出張だってあるだろうし、金曜の夜に客先とのミーティングもあるだろう。2 週間に 1 回ペースだと 50 泊。天候の不順や体調の不良から行きたくない日もあるだろう。30-40 泊ぐらいになってしまう。実際に使うことを考えると、リゾートマンションの所有は、かなり無理がある。買った値段で売れるとか、値上がりするから買っとくということで、リゾートマンションブームが起きたのである。

屋内のお掃除だけでも大変であるし、庭の手入れとなればさらに時間がかかる。使い残した暖炉のマキの整理をすれば、蛇やカエル出てくるかもしれないし、暖かくなれば壁にカビが生えて汚れてくる。ゴミも厳しい分別基準に従って捨てなければならないし、寒くなると、水道管が破裂してしまう。クルマの運転は大丈夫かしら・・・と。

都会を離れて定住の方針なら、こうしたトラブルは計算のうちである。あるいはかかる問題の処理こそ、複数居住の醍醐味というなら快適である。そうでなければ義務感が重くなってきて、結局、あれこれいろいろあって、よほどマメな人でないと、結局はお金を払って他人に作業を頼むことになる。しかしそれでもリゾートライフを楽しみたい。そこでタイムシェア(≒会員制)という商品が必要になるのである。

この調査は、「一都三県在住の団塊世代の住宅ニーズや価値観を調査し、団塊世代の住宅取得行動やその要因を分析することで、2007年以降の住宅市場に対する団塊世代の影響を把握する」というものだ。リーマンショックまえの時点ではあるが、掲記の調査によれば、マルチハビテーション志向は、意外に多い。金融資産の有無にかかわらず、ぜひ複数居住(マルチハビテーション)したいという回答は4.8%から11.4%。その予備群をいれると、34.4%から48%ということになる。さらに、こうした意向をもつ人々の5.8%から14.3%が、十分に可能、ないしすでに実現していると回答している。



41: 続・複数居住 出典・・前掲におなじ。

資産形成状況が良好になるほど、複数居住について、「おそらく可能」が増えている。この「おそらく可能」と「すでに実施」のあいだには、あまりミゾはないのかもしれない。実施してどこまで続くか、おおきな負担を感じないで継続できるか、まさにライフスタイルの問題になる。

33 リゾートマンションのホテル運用

コーネルを始め、世界に数多くのホテルスクールがあるが、客がたくさん来るホテルは良いホテルだという考え方は共通する。

越後湯沢はリゾートマンションの乱立で有名になったが、リゾートマンションそのものが悪いというわけではない。例えばクリスマスの前日になっても、リゾートマンションに明かりがつかないというのが問題なのである。これは当時の「開発計画」におおなる問題があったのだ。



20:越後湯沢町内リゾートマンション光景

施設は固定資産であるが、固定資産は存在するだけで価値があるのではなく、稼働して初めて価値があるのだという考え方は、リゾートビジネスの場合、極めて重要である。



21:越後湯沢町内リゾートマンション光景

90年バブルの崩壊後、行き詰まった旅館・ホテルチェーンが所有者を変えて新たな試みを行った。業界に伝統的な運営の仕組みが世の中の流れに合わなくなったのである。エンゼル越後中里は、こうしたリゾートマンションのひとつではあるが、稼働させるということにも配慮した工夫がなされていた。ユニット数は722。うち329室をホテル用途で運営している。そういう意味では、エンゼル越後中里は湯沢の「優等生」である。

越後湯沢のリゾートマンションの概況は後の節で触れる。

34 リゾートマンションの推移

エンゼル越後中里の客室には、キッチンセットが付いているものもある。食器のレンタルはないが、自分で持参すれば、これを利用することも可能であるようだ。これを使いこなしている利用客はどの程度いるのだろうか。本来、観光とリゾートは行動様式が異なるのであるが、現状は、1-2泊という観光型の短期宿泊が、大勢になってきたので、その辺の区別がはっきりしない。ゆえにキッチンも使われないのであろうが、この先の日本のリゾート市場を占う時に、このことは結構重要な示唆を与えらると思われる。

リゾートマンションのブームは2回あった。1975(昭和50)年代に苗場や湯沢駅前が対象になった。古い物件は有名地域のもので資産価値の維持は難しい。ついで90年前後である。85年から88年に建設され、89年から90年に販売されたものである。省みればバブル絶頂期であった。

80年代後半、バブル経済の上昇期。スキーブームがあった。法人でスキー場に保養施設がないと、採用が困難な時期があり、そこで福利厚生施設としてリゾートマンション需要が発生したという。また、所得の高い層の、「不動産本位」時代対応、インフレ対策という動機もあった。越後湯沢のリゾートマンションに関西の方からも買い手がついた。不動産の値上がりがローンの金利よりも高かった。それでローンを活用した。

その後、一気にリゾートマンション価格が暴落した。ローンだけが残ったケースも少なくない。湯沢には約1万4000ユニット(戸)がある。昨今の利用率は年末年始で約5割、お盆・連休等で3割程度という。

表3 湯沢町における年次別リゾートマンションの建築状況(1990年12月末現在)

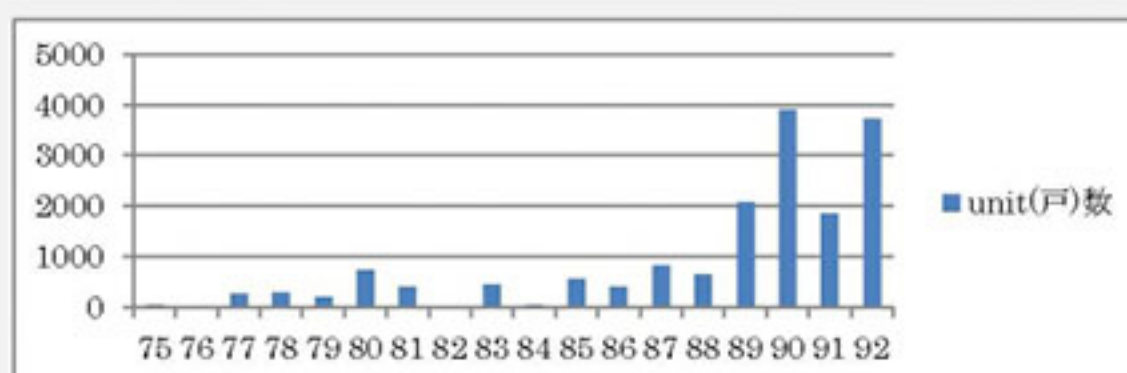
(単位 上段:棟 下段:戸)

年度	1975	76	77	78	79	1980	81	82	83	84	85	86	87	88	89	1990	91	92	合計
完成予定 建築中又は建築要綱協議済																	6	10	65
完 成 分	1 32		2 253	1 285	1 194	2 722	2 394		1 431	1 28	2 557	4 398	4 821	4 639	9 2,074	15 3,896			
地 区 別					1 194	1 282					1 187		3 688	1 224		4 743	3 909		14 3,227
内 容												3 322	1 133	2 242	8 1,852	4 1,574		3 875	21 4,998
内 容	1 32		2 253	1 285		1 440	2 394		1 431	1 28	1 370	1 76			1 222	5 1,079	2 788	2 486	21 4,884
内 容														1 173		2 500	1 140	5 2,357	9 3,170

(湯沢町役場資料)

42:越後湯沢のリゾートマンション

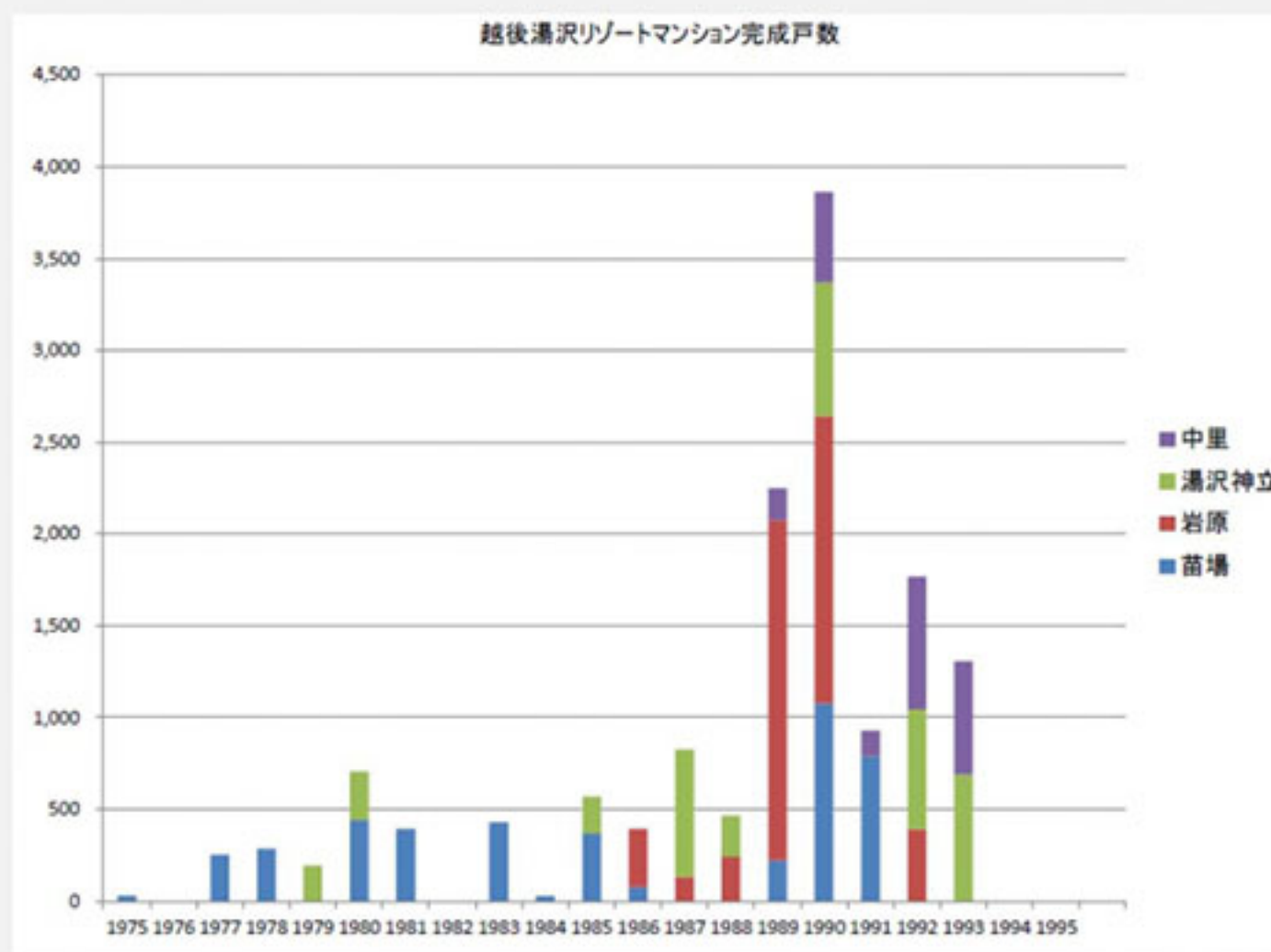
出典・佐々木 博、「雪国」湯沢町のリゾートマンションの地理学的分析,筑波大学人文地理学研究,16巻、173頁、1992年。



43:越後湯沢リゾートマンション完成(供給)Unit数(91-92年は完成予定)

出典・前出のものをグラフ化した。

以下の図では、越後湯沢のリゾートマンションが、苗場にはじまり、湯沢神立、それから岩原、最終場面で中里に建設されたことがわかる。苗場は約 15 年間かけてリゾートマンション事業を継続している。89-90 年に集中し、かつ 93 年まで完工が続く。事業計画が決裁は完工の 2-3 年前であることを考慮すると、事業にもブームというカウレーズがあることを知らされる。



44: 年次別・地区別リゾートマンション unit 数 2016 年 8 月に湯沢町役場に確認

35 新たな買い手の登場

株式会社エンゼル・湯沢エリアの管理部門では、現在同エリアに 12 リゾートマンションの管理業務を受託している。修繕積立金や管理費の支払状況から見て、越後湯沢のリゾートマンションのなかには、難しい物件もある。

管理費は月に 2 万から 3 万円、固定資産税が年間 2 万から 5 万円くらいかかる。これだけでも年間の維持費は 5-60 万円ほどかかることになる。存外に「立派な」建築物もあり、どうしても管理費や固定資産税は高くなる。

ローンだけが残し、相続もされず、管理費や固定資産税未納のケースもある。しかしリゾートマンションは終焉していない。現在でも、アウトドアやスキー愛好家が好みのリゾートマンションを探し求め活用する。交通事情が様変わりによくなっている。90 年バブルから四半世紀。ユーザー全体にリゾートマンションはゴーストタウンと思いきや、仲介市場は健全に存在し、リゾートマンションのなかにはその再活性化を目指してしぶとく生き残っているものもある。今回登場した「エンゼル越後中里」もまたそのひとつである。

【Ⅶ】関越境の白い壁

36 越後湯沢の気候

冬の晴れた日に東京から新幹線で新潟に向かう。高崎辺りまでの青空は、沼田を超えたあたりから曇りだし、ついで一転して雪景色になる。太平洋側は「太平洋岸気候」気候、日本海側は「日本海側気候」、その中間が「中央高地式気候」、そして中里のある越後湯沢は両方に挟まれる「中央高地式または日本海側気候」に存在するとなるが、降雪・雨量からみて日本海側である。



45:「中央高地式または日本海側」気候

『雪国』は大阪生まれの川端康成が30代半ばに描いた「稗史」的作品(世間のうわさなどを歴史風に書いた小説)である。「国境の長いトンネルを抜けると雪国…」は川端の感性の正直な表現なのだろう。

「三国峠を爆破して雪の塊を関東に」は、また田中角栄の感性を吐露したものであろう。一念発起して選挙区内を回るうちに出た「後世に残る」演説の一コマと推定できる。留学生相手に英語で授業する財界立の「国際大学(International University of Japan)」が南魚沼市国際町にある。やはり冬期は雪に埋もれる。東南アジア出身の学生は驚くであろう。

湯沢は札幌ほど寒くはないが、12月から3月までは東京に比べ5-6度低い。肝心の6-8月は1-2度しか変わらない。湯沢の日照時間は東京に比べ年間70%程度しかなく、ことに12月から2月は東京の528時間に比べ、その38%の201時間しかない。しかし、5-6月は東京より3-7時間長い。夏はよく照るのである。積雪は東京とは比べるべくもない。札幌の倍は積もる。名うての豪雪地帯である。したがって湯沢の12-1月の降水量は東京の5倍以上になる。

しかし風は年間通じて弱い。年間の平均風速は東京の6割程度、札幌の半分以下である。つまり、湯沢はおだやかな風で雪が降ってウエットだけど、東京は風が強く良く晴れて空気はカラカラとなる。

37 空から眺めると

太平洋側が一面に晴れた冬の日、飛行機で大阪から札幌や仙台に向かうと、名古屋を左折して、北アルプスの真上を通り、新潟で右折することがある。この雪山の眺めはアルプス越えてパリ・ミラノ間を往復するに似る。日本海側に近づく、雲に覆われ山肌は見えなくなってしまう。蔵王を超えて仙台側に入ると不思議に晴れている。

逆に仙台から大阪に向かう。まっすぐ南下して秩父あたりから恵那山に向かう。右に越後山塊を見る。やはり白い。あの先に越後湯沢がある。いかにも寒そうだ。たまたまそうなるのではなく、冬はいつでもそうなのだ。これは1995年から数年間の経験。今もたぶん同じ航路であろう。

38 東京から新幹線で高崎に向かうと・・・

大宮ではよく見えた伊豆の山々や大山・箱根も徐々に隠れ、熊谷あたりで富士山は見えなくなる。熊谷には筑波の地名はあるが富士見はどうか。鎌倉街道（＝八高線）は、深い秩父山塊の東の裾を通る。北條勢は見慣れぬ山塊を遠望し相模界隈とな異なる戦であったろう。東京の 100 キロ圏に高崎市、その市役所の 21 階展望レストランから、東は日光山塊、南東から南西に関東平野、西に秩父山塊を見る。日の出は下野・常陸から登り、経て信濃・甲斐に沈む。真北に越後湯沢がある。

16 世紀の戦国末期なら、真西は武田領（ないし北條領）、北は上杉領、真東は佐竹領となろう。小田原の北條が上杉と組んで、高崎の目前を支配した武田領をソククリ取るなら、秩父山塊を自在に操り、さらに上杉領を狙うなら三国峠も自在に越えなければならない。

39 人を拒むたたずまいの冬の越後境・・・上毛から越後に

冬の晴れた日、関東から見る越後境の山岳は白い壁になる。江戸時代なら人を拒む姿に見えたであらう。往来は難しい。この白い壁を表現した写真をネットから探してみよう。ひとつは高崎の 10 キロほど南の藤岡の「みかほ森林公園展望台」から撮影したものである。榛名の奥に白い壁がはだかる。白根・苗場・谷川・朝日の諸山銀嶺が見える（46-1）。これが壁となって関東と越後を隔てる。もうひとつは、その白い壁に 25 キロほど近づいたもの。高崎から 15 キロ北の榛名山頂「高根展望台」からみた白い壁である（46-2）。

出典・山からの眺望---「あの山は何？」 <http://yamaname.web.fc2.com/>



46-1: 藤岡「みかほ森林公園展望台」から北を臨む 2015/10/7

手前の相馬山（榛名）の後ろに、佐武流山（白根はさらに左）、筍山（苗場）、谷川・朝日の冠雪したを確認できる。武尊山は黒槍山（赤城）の左、その後の笠ヶ岳は尾瀬の西にあり下野・越後の境に近い。

出典: <http://yamaname.web.fc2.com/151007akagunatenbou.html>



46-2: 榛名「高根展望台」から北を臨む 2014/4/24

出典: <http://yamaname.web.fc2.com/140424takane.html>

佐武流山（白根はさらに左）、筍山（苗場）、谷川・朝日の冠雪が明快である。この白い壁の奥が越後、筍山（苗場）と谷川の後ろに越後湯沢がある。これだけ遠近が判明し、山岳が特定できるのは素晴らしい。

40 桐生から信越・越後

高崎から東に15キロくらいに桐生(きりゅう)がある。桐生からは、榛名の右に、白根山がみえることになるが、その先は信濃(飯山)で、さらにその先が越後(妙高)である。今回の越後湯沢は、桐生からみると、つぎの写真の右端(横手山・信濃志賀高原)のさらに右になるが、桐生からは赤城が前にあるので見えない。ただ「白い壁」には違いない。桐生から90キロの遠望ながら明解な画像であり、相当な努力があったはずだ。

出典:「花と低山を目指して・・・四季折々の花や景色を撮りながら」

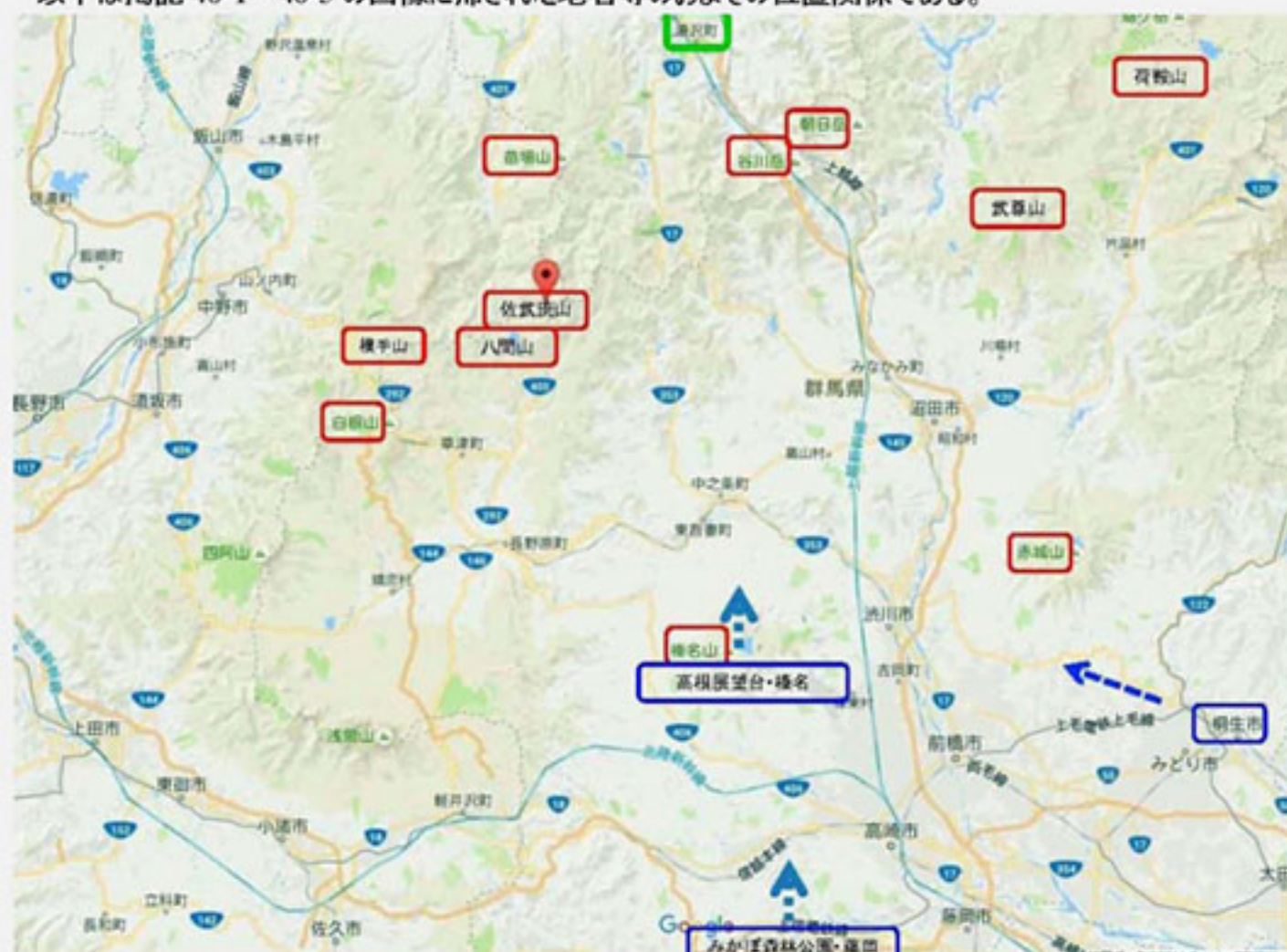
<http://blog.goo.ne.jp/kotsunagi567>



46-3: 桐生から白根方向を臨む(原画像の部分)

原画像では、「榛名山の右奥では、本白根山(旧火口)、逢ノ峰、白根山(現火口、湯釜)、芳ヶ平、洪峠(国道最高地点)、そして横手山(長野県、志賀高原)などが、白銀の山波を構成している」と紹介する。

以下は掲記 46-1～46-3 の画像に帰された地名等のおよその位置関係である。



47: 画像(46-1～46-3)の地名等の位置 矢印は撮影方向

41 あえて三国峠越え

上野(こうずけ)の高崎から越後湯沢に抜けるには三国街道の三国峠を越える。山岳愛好家が湯沢に滞在するなら、一度は三国トンネルの上の三国峠越えの細道を味わうのも一興であろう。

峠をはさむ三国街道の村々は寒村であった。この地形では耕地に乏しい。森林があっても所有者はいないとか。よって農林業だけは生業になりにくい。ただし宿場町である。物流業で生計を補った節がある。

江戸から越後に向かって絹や木綿。越後から江戸に向かっては繭・塩や干物や縮布(ちじみ/麻織物・小千谷産が著名)、そのシルク版である塩沢紬(経糸に生糸を緯糸にまわたの紬糸)などがある。塩沢は南魚沼にある地名でもある。

42 越後湯沢から塩沢へ

塩沢は魚沼の一部である。なんにしても、海沿いの新潟から見れば、ずっと山沿いにある。それでも「魚」というから、なぜとなるのだ。

この辺は市や郡のなまえに「魚沼」を称する。地名辞典などによれば、「魚沼」は8世紀の「続日本紀」に登場する郡の名、しかしなぜ魚の沼なのか。鮭が上ってくる川ゆえに、大野(オオノ)が転じて、それから、もともと沼地が多かったから・・・という(地名由来辞典)。魚沼産コシヒカリは伝説的だが、たしかにおいしいものもある。生産者や田んぼの所在地まで指定すれば、美味しい米が入手できる。コシヒカリはどうも福井生まれのようだし、生まれて間もなく、新潟と千葉にもらわれていったらしい。

魚沼と名づく米がすべておいしいかどうか。これにはいろいろ事情があるようで、それぞれには確かめる必要がありそうだ。以下はご参考。

<http://homepage3.nifty.com/rihey/shyokumi/area.html>

魚沼産コシヒカリのホンモノとは、塩沢のごく一部の田で生産されたコシヒカリのことなのだという。

その塩沢だが、越後湯沢からは、17kmくらい。歩いて4時間、クルマなら25分。いまは、南魚沼市(2004年に南魚沼郡六日町と大和町が合併)に属する。要は、越後湯沢の隣町である。米どころに酒どころ、それにスイカが獲れる。

まいたけ、えりんぎ、ぶなしめじ、カット野菜等の生産販売及びきのこの加工食品の製造販売する「雪国まいたけ」の本社がある。

「農家の大平喜信が中学卒業後、もやし栽培から起業、マイタケの人工栽培技術確立して急成長、一代でホクト(長野市)に次ぐキノコ業界2位」の会社となった。東証2部に上場していたが、2013年に不適切な会計処理が発覚、大株主でもある大平氏が社長を辞任。人事をめぐりお家騒動が起き、結果は、米国のベンチャーキャピタルが公開買い付けを成功させて落着いた。減資して上場を廃止、経営者は交代したが、生産販売活動は続いている(16年3月決算では、売上152億円、営業利益21億円)。食品事業だが、実態はバイオ事業でもある。今後何かできそうな感じもする。(続く)



48: 越後湯沢と塩沢の位置関係

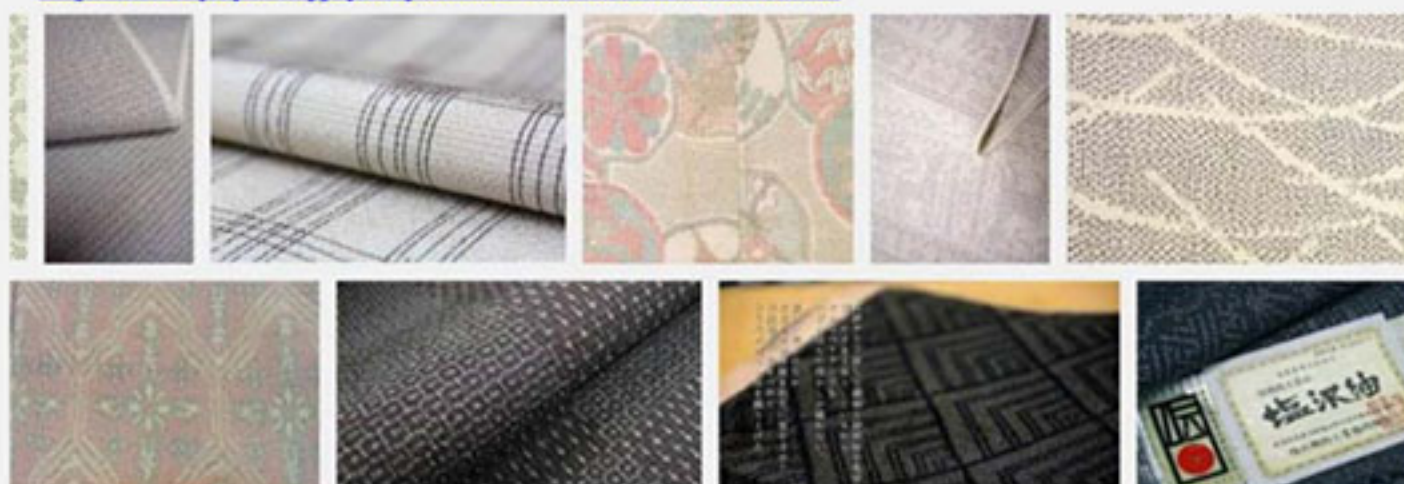
塩沢の縮布(ちじみ)や紬の織物は、米どころの豪雪地帯で冬季にふさわしい仕事であった。縮布は兵庫の明石から小千谷に住み着いた堀次郎将俊(1620 年-1679 年)が元祖である。麻の緯糸を強撚して凹凸を作る。豪雪地帯なので雪にさらす。手で紡ぐ。1 反織るのに 100 日を要する忍耐の仕事である。



49-1: ちじみのイメージ。特徴はたとえば <http://mustang.c-mash.co.jp/ojiya2.html> 参照

ちじみの他に本塩沢(お召)、夏塩沢(紗)などのシルク製品がある。いまだき夏塩沢といっても、好んで着る方がどこまでおられるか。「恋に疲れ、少々陰のある女性が本塩沢に名古屋帯を締め・・・京都嵐山大覚寺の境内・・・かすかに滝の音・・・蚊耕の単衣の裳裾が涼風に揺れ・・・」と描かれても何とも言えないが、しかし好事家の向きは、この先の文章を、以下の URL でご覧いただきたい。

<http://www.ykya.co.jp/ykh/ykhtale/49.siozawa/siozawa.htm>



49-2: 塩沢紬のイメージ。

小千谷や塩沢で反物を織るには、近郷・隣国から生糸を集荷する。できあがった着尺は江戸や京に運ぶ。よって三国街道を「越後のシルクロード」という向きもある。

また、佐渡の金はこの街道を通り、江戸の「金座」に送られた。金座通りは銀座通りほど有名ではないが、呼称は現存している。東京・久松警察署の前の通りである。

ただし、佐渡の金は北国街道(善光寺街道)も通る。正徳 3 年の記述に「佐渡奉行所機構改革はじまる」とあり、「佐渡奉行 2 人制実施に伴い、奉行通行路が、往路は三国街道、帰路は北国街道となる」とある。いま流に言うなら、内部牽制なのだろうか。あるいは、盗難の防止なのか。江戸幕府も結構な「役所」だったのであろう。

出典・新潟県立図書館/新潟県立文書館越後佐渡デジタルライブラリー

<https://www.pref-lib.niigata.niigata.jp/Archives/NenpyoIndex>

43 三国街道「塩沢宿」の牧之通り

三国(みくに)街道は、中山道の高崎(群馬県高崎市)で分岐し、北陸街道の寺泊(新潟県長岡市寺泊地域)に向かう街道である。その途中にある湯沢宿(新潟県南魚沼郡湯沢町)から2つ先が塩沢宿(新潟県南魚沼市)である。おおむね徒歩で18キロ。クルマなら30分くらいである。

むかし(250年前くらいの明和年間)ここに生まれた鈴木牧之という豪商兼文化人がいた。縮みの仲買商という。繊維(原料・糸・布・衣料いずれであっても)は「あたる」と大きい。

余事ながら、三井だってもとはといえば呉服商だし、Zaraの親会社はスペインの超片田舎に本社のあるInditex。その創業者アマンシオ・オルテガは、世界一の長者でMicrosoftの創業者ビル・ゲイツに続く。

その牧之(ぼくし)は文芸を能くし、山東京伝・京山兄弟や十返舎一九、滝沢馬琴などと交流があったという。

出典・鈴木牧之記念館 <http://park11.wakwak.com/~imahaku/>

その時代から200年後、その牧之とは直接の関係はさほどないのだけれど、宿場町として栄えていた(日本海と関東を結ぶ物流事業+繊維事業)、かつての塩沢をしのび、地元住民が「塩沢らしさ」とは何かを考えた。

それで、歴史と文化を復興させようとプロジェクトを興し、「雪国の歴史と文化の街」づくりに励み、2009年に三国街道塩沢宿「牧之通り」として完成した。

出典・「三国街道塩沢通り牧之通り」<http://www.bokushi-st.com/>

エンゼル越後中里の塩沢出身の従業員がしきりに「塩沢はいいところ」と推奨していたのは、「雲洞庵」のほかに、この「牧之通り」のことを指していたのであろう。エンゼル越後中里提供の「牧之通り」のスナップを紹介する。



50: 牧之通りと塩沢市街

44 鶴齢のこと

越後は酒処である。関東信越国税局管内では圧倒的だ。全国だと、兵庫・京都に続くが、生産量だと兵庫の4分の1程度である。ただし酒造の事業所では兵庫の76県よりも多く89社を数え、トップの趣がある。つまり、中小規模の酒造家が多いことを意味する。

そのなかで、牧之通りの近くに、1717年創業以来の青木酒造がある。自己紹介に拠れば、塩沢の水は「魚沼でも特に上質」で、「寒造りにこだわり冬期間だけで仕込み」「あくまで手造りに徹した」酒を作るという。

出典・<http://www.kakurei.co.jp/> 左・の画像を含む。

いくつかある銘柄のなかで「鶴齢」に特に想いを致す人物がいうには、「飲み口がすっきりとしていて、くせがないので、いくらでも飲める」「端麗辛口、冷でも燗酒でも美味しい」とのこと。その彼は、この酒造家が「牧之通り」に存在することを、このホームページの作業ではじめて知った由である。



51: 青木酒造

【IX】越後湯沢略史寸描

45 天地人抄

「天地人」は2009年1月から47回にわたってNHKで放映されたドラマ。上杉景勝と家老の直江兼続を扱う。

越後の時代物というと上杉謙信がでてこないといふと収まりがつかない。江戸末期でいうと越後は115万石。前田100万石だが、経緯を見ると、信長が前田利家に能登を与え、賤ヶ岳で秀吉から加賀2郡、佐々成政に勝利し越中西三郡が加わりこれで100万石、関ヶ原の功で加賀西部が加算され計120万石になったのち、支藩で越中富山藩10万石と加賀大聖寺藩7万石(10万石)分与したので、前田本家の領地は能登・加賀・越中3か国に残る分を合計すると102.5万石になる。

しかし、江戸末期ベースで計算すると越後だけで116万石。ちなみに、越中81万石、加賀48万石、能登28万石なので、上杉景勝がもっと要領良ければ越中+越後で200万石、これに東北の会津藩分でも加えれば、300万石に近づく。いかなながら、ドラマにもあるように、どうもいまひとつもの足りず、見方によっては退屈である。直江兼続なる家老は、ドラマでいうほどに能力が高かったのだろうか？

謙信(春日山城)の死後、雲洞庵で育った上杉景勝(姉の子)と、上杉景虎(姉の子の養子で北条の



52: 謙信の甥・景虎と女婿の景虎+実家の北条の援軍

人質・直江津の御橋館に居住?)が、後継争いをする。景虎の援軍の北条は三国峠を越えて、坂戸城を奪取可能な樺沢(現・樺野澤)まで攻めるが、景虎がダウン。小田原の北条がわざわざ越後まで攻める動機は、計算した結果、200万石+αとなるという認識なのかもしれない。

越後は、関八州ほどではないにしても広い。戦上手でないと版図は維持できない。謙信のような人物がでるのは必然であろうし、武田信玄が置かれた環境(甲斐はせいぜい31万石)とはいささか異なるのであろう。

46 雲洞庵

金城山(南魚沼市・標高1,369m)の山頂から北西側山麓に、山号を金城山とする曹洞宗「雲洞庵」がある。もとは尼寺。室町時代の永享年間(1479-1485)に、現存は1707年(宝永四年)、出雲崎の黒基内を棟梁とする大工群によって再建された建物である。「近世寺院建築の最も優れたもの」と自慢する。

「赤門から本堂に続く参道の石畳の下には、一石一字ずつ法華経を埋めた」ので、信仰の対象は、「この石畳を踏みしめてお参りすると、罪業消滅・万福多幸の御利益」となる。

直江兼続、上杉景勝が、十三世 通天存達和尚から幼少期に学んだ寺として知られ、例のドラマ天地人では、現存する雲洞庵で口けがおこなわれた。寺領は45石。名刹なのであろう。かなり多い。

既述のように、ここからエンゼル越後中里に通う従業員がオススメのスポットである。



S3: 雲洞庵アラカルト

47 長岡・江戸参勤交代は 7-8 日

冬、降雪の三国峠は通行できない。それでも、江戸末期、安政 4 年三国街道を通行する人は約 2 万人を数えるという。

応 3 年の越後湯沢における宿泊人数は 6600 名。長岡藩の牧野家(7.4 万石実高 14.2 万石)の参勤交代もここを通る。長岡から江戸は 7-8 日。湯沢も通過し三国峠を越え高崎に出て江戸に向かう。湯沢は宿場町であった。積雪が半端ではないので冬季はムリ、夏季のみの往来である。

加賀藩の参勤交代は三国街道を通らない。190 回のうち 181 回が北国街道から中山道(中仙道)経由という。

金沢からは 18 日間。ほぼ上信越自動車道の道筋である。金沢から難所の倶利伽羅(クリカラ)峠や親不知を越える。上越(高田)を右折して南下、長野(善光寺)、軽井沢(追分)を経て高崎、熊谷、大宮、板橋、そして本郷・加賀屋敷である。440 km を 18 日なので日に平均 25 km。長岡から江戸呉服橋の藩邸まではざっと 270 km、7-8 日ならば日に 34-39 km。いろいろ事情はあったにせよ、越後から三国峠越え江戸の方が、まだしも恵まれていたのかもしれない。



54: 加賀藩の参勤交代ルート概念図

48 湯沢村は 541 石

寒村・湯沢の生活は容易ではない。のどかな平時であっても、獲れる米はわずかなものだ。現在の湯沢町は江戸末期で換算すると 1,860 石あまり。内訳は、旧浅貝村 47 石、二居村 27 石、三俣村 78 石、神立村 562 石、湯沢村 541 石、土樽村 606 石。しかし、年貢を納めた後、残る米で生活できる人数は知れている。泊り客の食事も用意しなければならない。宿場の仕事でカネを稼ぎ、米は米どころの本場の越後から買っていた。

管轄は出雲崎支配所で、湯沢から街道を北に 83 キロ先、長岡市の西隣にある現在の出雲崎町に所在した。つまり越後湯沢も天領である。魚沼郡 393 村のうち 106 村、約 7 万石を支配していた。たかだか支配所(幕府の出先機関)ではあるが、長岡藩とほぼ同規模の領地を支配していた。

出雲崎は、「幕府の財政を支える佐渡の金銀を船で運びこむ港」「越後の米を船で集め運ぶのに便利」「越後の高田藩、長岡藩、新発田藩の力を抑えるのに都合がよい場所」ゆえに、それなりの権力があつた。「天領」でも「出雲崎は大変重要な地」ということで、ここには難には稀な江戸が残っており、長岡とは違うぞという現・出雲崎町(長岡市とは合併していない)のウリで、いわば観光資源になっている。

なお、日本の石油の機械掘削発祥地でもある。

出典・越後出雲崎天領の里(道の駅): <http://www.shidax.co.jp/tenryo/museum/>

49 峠の南が官軍・北が幕軍

維新前夜。1868 年閏 4 月 24 日。三国峠戦争があった。戊辰戦争の一部である。峠の南が官軍、つまり東山道督府に高崎藩・佐野藩などで、北が幕軍、会津藩である。南から北に攻めた官軍が勝つ。宿場の村々は、この戦争のころ会津藩お預けとなった。



55: 会津藩布陣の大般若坂

小出島(湯沢からさらに三国街道を北に 40 キロ)に会津藩の陣屋があった。庄屋を通じては、会津藩の命を受け食料や作業員を供出した。労力のもとより、武具代替品のリース、材木、274 人分の炊き出し。玉子や金平糖、衣類の繕い…。そして駄賃。むろん米は持参したろう。

戦争とはカネがかかる。会津侯はちゃんと払ったのか…。が、貸し倒れの記録もいまなお残っているようだ。大般若塚は三国峠の上毛(群馬)側・新治村にある。

出典・会津に告げよ武士の死を(小出島)

<http://www.7a.biglobe.ne.jp/~jigenji/koidenjima.htm>

50 養蚕と物流

維新が成ったからといって、湯沢は食えるわけではない。米の他に養蚕があった。しかし生糸の相場は荒っぽい。失敗して家財を整理、北海道に移住した例もある。

宿場町なので、いま流に言えば物流・ロジスティックに従事する。常飛脚に代わって郵便制度や内国通運会社が整備される。新潟⇄東京の郵便を確立しようにも、雪の三国峠がままたまらない。維新後は郵便飛脚といえども帯刀禁止。不用心であった。よって、ピストルを所持して雪踏みしながら、雪道を確保した。

51 明治初期の湯沢は湯宿(旅館)4 軒

維新前後、湯宿のトップは「高半」。いまなお健在である。そして村営の共同浴場 1 箇所あった。「温泉は百姓持ち」が江戸幕府からの定法。湯宿事業者は村に湯銭を納めた。この湯銭が結構な金額になり、後々、村の財源になる。財源拡充のため新泉源(源泉?)を求める。1879 年に開削するが失敗に終わる。

この頃の高半の年間宿泊者数 3-5 千名。自炊で雑魚寝。平均 3-5 泊、夏場は 6 泊。おもには近郷の湯治客である。松之山(現十日町市)温泉に比べると低単価という。鉄道があればもっと遠くから来るのだろうが、仕方がないということで、明治の後半までこの状態が続いた。

52 日露戦争に村興し

1904 年、日露戦争には勝利した。しかし、地方財政は破たんしていた。ここ湯沢でも、洪水治水、赤痢・腸チフス・トラコーマなどの防疫、小学校高等科設置など、カネのかかることが続いた。

そこで国は地方に対し、「町村是」つまりは村おこしの目標を定めさせ推進させた。全国的には鉄道や道路の建設が進み、三国街道のカナメ、宿場町湯沢の位置も低下した。村の食い扶持、物流事業が衰退しはじめた。

米の収穫や養蚕の拡大、温泉浴場の改良を考えた。しかしながら結局はうまく達成できなかった。

米どころ越後といっても、それは平野でのこと。耕地の少ない湯沢では無理な話で、目標 1800 石に対し実績は 1400 石であった。たとえ目標達成できたとしても、生糸や米の相場は乱高下した。

53 公共工事と鉄道

宿場稼業や農林業からの現金収入に多くを頼れなかった。それを補うものは、ひとつは東京への出稼ぎの他、製糸工場に出稼ぎする工女の出稼ぎが目覚ましく、1924 年生糸暴騰の頃は、「娘 3 人持ては千刈（田約2町歩）買える」と言われたという。

さらに、規模の大きい長期の公共工事があった。上越線（新潟からの北線、東京からの南線、複線、電化、上越新幹線まで続く）、清水トンネル（水上-越後湯沢間で全長 9,702m、単線、複線、電化、新幹線）、湯沢発電所（電力立村を検討した時期もある）、三国街道の改良工事（これは関越自動車道の複線化まで続く）、清水隧道（拡幅から自動車道複線化まで）などである。村外から多数の参入者があり、これが宿場稼業にも寄与した。しかし、公共工事は何れ終わる。



56: 上越線開通前後の越後湯沢温泉 Ford の Model-T (T 型車) が印象的
出典・故笹川勇吉（新潟市在住郷土史家）旧蔵絵はがきコレクション 新潟県立歴史博物館
http://nbz.or.jp/?page_id=2891

54 湯沢村の救世主はスキーと上越線

1911 年、陸軍はレルヒ（オーストリア陸軍大佐）を講師に高田連隊（歩兵 58 連隊、13 師団）で軍事技術としてスキーの講習会を開催した。1913 年、山口少佐が湯沢周辺でスキーの試演を行い、その頃のセミナーに湯沢の本間栄太郎（電話局勤務）が1週間参加した。冬の電話線保守にスキーが役に立つという心づもりであった。「かんじき」よりはるかに役に立つことは分かったが、自由に滑れるのに 8 年かかったという。

このスキーに魅せられた人々は同好会を結成し、見よう見まねでスキーを楽しんだ。1916 年ごろ、布場（湯沢）でスキー場を開設、エスキモーをもじった「偉スキー猛倶楽部」が結成され、1919 年に湯沢村がスキー講習会を開催、22 年には湯沢小でスキー板 50 台を購入した。23 年岩原（30 年に新潟県営）、31 年中里にスキー場が開設、また、この 31 年に上越線が開通する。

こうした動きは湯沢の旧隣村を刺激した。1924 年に土樽村はスキー大会を開催、スキー 80 台を購入、土樽小の高学年児童全員にスキーの講習を受けさせた。この間、南魚沼郡や新潟県がスキー講習会を主催し、スキー普及に努めた。一方、村の大工たちは工夫を重ねてスキーの板づくりを始めた。胡桃や朴や楓、クリの木を使い、松脂を煮立て木材に反りをいれ、本物の形をまねた。古志郡宮内（現・長岡市）北日本スキー製作所なる製造業者が年間 7000 台を作ったとある。

55 清水トンネルが開通、川端の『雪国』効果

1931年に清水トンネルが開通し東京-新潟間が開通する。スキーの普及とともに、湯沢のスキー場と温泉宿に東京・関東圏から客が訪れる。そのなかに川端康成もいた。35年からいろんな雑誌に断片的に書きつがれた。湯沢の地名は一回も出てこないらしいが、舞台が湯沢と知れ渡った。

上越線全通に伴うスキー場への誘客は、東京や横浜など関東のみならず、鉄道省（JR 各社の前身国鉄の母体）は日本郵船と組んで、上海からのインバウンドを取り込み、岩原に送客した。こうした企画は湯沢地域だけでなく、妙高や菅平、志賀でも行われた。

「雪国」の舞台になるような伝統の温泉旅館はもとよりではあるが、スキーに付随する飲食宿泊の事業は、湯沢の地元民にしてみれば、久しく待ち望んだ現金収入の途である。いわゆる民宿の走りである。日本人向けスキー宿のみならず、それぞれスキーロッジとしての機能を持つ洋式のホテルを設置した。京都ホテルがマネジメントコントラクトした鉄道省出資の志賀高原ホテル（37年開業 99年閉鎖・現博物館）、中里東鉄山の家（31年・現不詳）、妙高にある大倉系の赤倉高原ホテル（37年）などはその例である。ただそれぞれの運命を経て経営者も変わり、そして現在がある。当時の面影がどこまであるかは、何とも言えない。



57: 上越線開通時の越後湯沢駅と布場スキー場

出典・故笹川勇吉（新潟市在住郷土史家）旧蔵絵はがきコレクション 新潟県立歴史博物館

http://nbz.or.jp/?page_id=2891

56 スキー場と宿泊・温泉試掘への設備投資

上越線の開通、その後の複線化、清水トンネルの開鑿、電化し、新幹線へと発展する。そして一般道路も整備され、三国峠に隧道が完成、2車線で舗装が完備され、さらに自動車道へと発展していく。この間、敗戦という打撃を受けながらも、長期的には着実に輸送力は強化された（余裕あれば詳細は後述する）。

輸送力が增強されれば観光客も増加する。鉄道省のお墨付きがあるから、その効果は絶大だった。その代りスキー場が足りない、宿（ベッド）も湯量も不足で投資が不可欠になる。宿泊人口が増えても、昭和初期の技術では、試掘しても思うようには供給できない。集湯して分湯へと話し合いが進む。

わけでも、スキー場で動力を以ってスキーヤーを運ぶ必要がある。はやくも1931年に布場（湯沢）・岩原にローププラー（Rope Puller・索道引っ張り器械）が敷設された。分速120Mであった。旧村（≡大字）の威信をかけて…というか、現金収入を目指して、スキー場の設備投資を競い、悲喜こもごもの長い歴史を刻む。

1935年（昭和10年）から1941年の大東亜戦争の開戦に至る数年間、ことに37年から39年は日中戦争好況の余波で湯沢も栄えた。湯沢芸妓は39年がピークだった。以降は、戦時体制で統制経済が強化され、電力・ネオン・ダンスホールが規制、観光事業も窮屈で、結局、終戦という名の敗戦を迎える。

57 立ち上がり早い湯沢のスキー場

しかし、戦後の湯沢スキーは小規模ながら直ちに立ち上がった。47年にGHQ(進駐軍)がスキー場やホテルの接収しロープトウを敷設、表向き日本人の立入りは不可だが、インサイドでは交流もあった。こうしたことも刺激になったであろう。51年サンフランシスコで講和条約が締結、布場(湯沢)の一本杉にはスキーヤー4500人、温泉客と併せ6000人が訪れた(新潟日報)。52年には湯沢のスキー場接収は解除された。

日本海側の大都市・新潟に抜ける道路・鉄道はいずれ整備される宿命にあり、東京・湯沢の高速化交通網は順調に実現した。スキー場開発にも拍車がかかる。しかし、市場に通用するスキー場は、昭和30年

代でも「億」の資金を必要とする。地元では無理なので、開発業者探しの競争になった。



58:上・苗場の位置図、下・苗場プリンスホテルの Web から

58 象徴的な西武系の苗場開発

最古参の湯沢がケーブル敷設を目指すのは当然として、典型は苗場の開発である。苗場山のふもと浅貝は、湯沢中心部から離れ、駅からも遠く、道路整備も不十分で遅れていた。ほぼ手つかずゆえ、堤康次郎の西武(≡堤義明の国土計画)にしてみれば千載一遇、白紙に自由な計画を描けた。1961年に開業し、75年頃には、ホテル・集合住宅などを含めた総合不動産開発としてのスノーエリア開発を構想し実施した。

この種の開発はアメリカが上手だ。ゴールは、クワッドリフト(乙種特殊索道)・ゴンドラ(普通索道)、そしてスノー

メイキングシステム(人工降雪システム)が加わり、それだけでなく、料飲物販の店舗や住宅をミックスして「街」の開発に向う。これはスキー場間の大規模な設備投資競争を競うことになる。

開業以来 50 有余年。たとえば、浅貝側のやや裏通り風のスナップをみると、いささか疲労の感は否めない。苗場プリンスホテルの Web には、「ゲレンデ、ホテル、レストラン、ショップ、リラクゼーション、それら全てをハイレベルに満たすスーパーリゾート」「関西・四国からは距離が遠く・・・苗場に滞在せずにスノーリゾートは語れない」、「まさに世界有数、至福のスキーがここにある」と結ぶ。アメリカの有カスノーリゾートのようにうまく維持できるかどうかは、この先数年のオペレーション次第ではなかろうか。



59:浅貝側のやや裏通り風のスナップ 出典・・・Google から

59 「湯沢町史」

このホームページの原稿を書くに当たり、『湯沢町史』（編・湯沢町史編さん会、発行・湯沢町教育委員会、2005年9月刊）の所要部分を参考にさせていただいた。



60:『湯沢町史』

湯沢町の近代史、明治維新の戊申戦争から終戦までを扱っている。

こうした地方史の記録の整理と執筆は、時間と力ネのかかることに加え、辛抱強い作業を必要としよう。

本町のそれもまた同様にて、633 ページに及ぶ大著である。しかし読み手はいささか我慢に欠ける。縮布や紬の織り手のように忍耐力があれば良かったのだけれど、遺憾ながら、隅から隅までしっかり読んだわけではない。

それでも、山岳に立地する「まち」の在り様と変化を堪能させていただいた次第である。

（文責・大谷）